



〈研究〉『うゝ えあ・ぎるど』ノ經濟史的研究(1)

津田, 武二[稿]

福田, 徳三(校訂)

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 27(2):263-271

(Issue Date)

1919-08

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00053080>



研究

『グエ・ギルド』ノ經濟史的研究（其二）

津田武二 稿

法學博士 福田德三 校訂

緒言

此ノ一篇ハめーとらんどノ原始單位トシテノ血屬團體ヲ否認スル見解（拙稿「英國古代土地相續法ノ研究」參照）ヲ吟味シ、却リテ原始經濟單位ヲ氏族ニ求メタキ愚考ヲ陳述シ、次ニ福田博士ノ「祓除ト貨幣」及ビ「ギルド」ノ考察（續經濟學研究「經濟史雜考」參看）ニ暗示サレテ、贖罪ノ制度並ビニ社會組織ノ推移ヲ察知シテ、全篇ヲ Vergild ノ經濟史的意義ノ考察ニ充テタモノデアル。

研究要項凡ソ左ノ如シ。

一、グエ・ギルドノ經濟史的意義。

二、めーとらんどノ續論吟味。

三、原始氏族單位愚考。

四、臺灣蕃族の社會體制。

五、ズえあ・さるどト貨幣トノ聯想。

六、ズえあ・さるどト社會組織トノ干繋。

一、

Wergild ハ原始人類ノ結社性ト原人ノ爭鬭慾トヲ前提トシテ存在シタ。抑々原人(自然人)ノ爭鬭ガ性慾又食慾ヲ動因トシタ事ハ容易ニ想像シ得ラル。而シテ性慾ニ因ル爭ハ原則トシテ——原始無婚説ヲ不合理ト做シ團婚現象ヲ例外ノ事實ト觀ズレバ(福田博士國民經濟講話乾卷二四八頁乃至二五一頁參照)——個別的ナリシコト、又食慾ニ因ル爭ヲ考フルニ、其ノ始メ小動物植物ヲ對象トシタ時代(漁撈低度農民)ニハ其等食物ガ過剩ニ存在セシ故、爭ノ殆ド無カリシ事又縱令爭アリトセムモ個別的ナリシ事ヲ想察シ得ル。進ミテ食慾ガ愈々動物性ニ向ヒ火食ノ風行ハル、ニ至ル時ハ、食物探求ガ集團的現象ト成ル時(牧畜民)ニシテ、爰ニ食物ノ缺乏ヨリ惹キ起サル、團體的鬭爭ヲ見ル。此ノ間ニ處シテ結社性アル人類ハ「ズえあ・さるど」ノ制ヲ生シタノデアル。乃チ其ノ發生ガ原人ノ經濟的慾望ノ萌芽ト相前後シタ事ヲ先ヅ注目シタイ。(註一)

漁撈生活ヲ營ンデキタ人類ハ財産又財産關係ヲ有スルコトナク、隨ツテ價格ノ觀念代價ノ觀念等ヲ有ツ餘裕ガナカツタ(Hildebrand, Recht und Sitte, 1907, S. 7)。而シテ當時ハ恐ラク掠奪婚ヲ旨トシタデアラウ。時移ツテ游牧ノ民ガ應テ牧畜ヲ營ムニ至レバ、一定ノ根據地ニ居住スル生活ト成ツ。(Hildebrand, op. cit. S. 28-30) 既ニ財産ヲ所有シ此ニ買收婚^{カウゼー}現レ、且ツ通例親屬又家名ハ母

ニ從ハズ父ニ依リ定マルニ至ル (Hildebrand, op. cit. S. 31-34)。

而シテ、うゑあきるとハ此ノ牧畜時代財産關係發生ノ時期掠奪婚ヨリ買收婚ヘノ過渡期ニ生レタノデアル。うんとノ説明ヲ借レバ、——血屬的仇敵關係ヲ和解スル取引契約即チ被害者ノ家族ニ對シテ殺害者ヨリ辨償トシテ支拂フうゑあきるとハ、繼續スベキ血屬的爭鬭ノ勢力ノ打破ニ對シ習俗ト成レル賠償デアル。而シテ此ノ和解取引ハ掠奪婚ヨリ買收婚ヘノ轉移ト全クニ相應ジテ臻ル、(Wundt, Elemente der Völkerpsychologie, 1913 S. 337) 當時ソノ賠償トシテ支給サレタ財ハ家畜デアッタ、五ハふるなノ謂フ如ク「經濟生活ノ中心」ガ牧畜ニ在ッタ事實ヨリシテ推察セラルベク、特ニ牛ノ占有ガ財産ヲ決定シタルモノニシテ、從ツテ又うゑあきるとモ亦牛ヲ以テ充テラレタノデアル (Brunner D. utche Rechtsgeschichte, Band I, 1906. S. 82)。

右ノ事情ヲ商業史的ニ考ヘシタルかんにんがむハ、うゑあきるとガ極メテ原始ノ制度ナル事、而シテ其ハ家畜ヲ以テ富ノ形態トシタル當時ノ社會ニ於テ組織サレシコトヲ是認スル。尙更ニ、あんどろさくそんノ制度ヲバ大陸夫レト相並行スルト做シ、且ツ共ニ金錢賠償ヲ強要スル風アリシト做スしーばーむノ見解 (Seeborn, Tribal Custom in Anglo-Saxon Laws) ヲ採用シ、「錢貨ガ罪行ニ對スル賠償トシテ要求サレキタル以上、其ガ商業取引ニモ流通サレキタルコト疑渺シ」ト言ツテ、英人ガぶりてんヘ渡來以前早ク貨幣ノ使用ヲ慣トシタル事實ヲ信ズベキ、一ノ理由ト觀ジテキル、(Cunningham, Growth of English Industry and Commerce, Vol. I, 1910. pp. 48-49)。

しーばーむノ見解ニハ學者贊否區々デアル。疑ハ貨幣ニヨルうゑあきるとガ如何ニ古キ時代迄

遡及シテ考ヘ得ラル、カノ點ニアル。ヨリ近代ニ進ムニ從ヒテ漸クニ、罪過ノ賠償ハ貨幣ニ依ルヲ原則トシタルコト正ニ考ヘ得ベク、又時代ノ進ムト共ニ、遂ニ貨幣ガ富ヲ成スノ觀ノ著シキコト亦見易キ理デアル。茲ニ此ノ言ヒ易ク見ヤスキ「貨幣」ノ現象ヲ、彼ノ古代「牛」ヲ以テ給シタルうえあ、即チ團體生活ノ目安トシテ又團體成員結束ノ力トシテ存在シタルうえあとノ制度ト照合シテ考フルニ興味深キヲ覺ユルノデアル。(註2)

(註1) うえあノ謂ハル個別的食糧採求ノ階段カラ鎖封の家屬經濟階段ヘノ推移 (Bucher, die Entstehung der Volkswirtschaft, 1913, S. 27, 91)

(註2) 更ニ福田博士ノ謂ハル、孤立的排外的血屬團體ノ自足經濟時代カラ自足本位共同經濟時代ヘノ過渡(福田博士國民經濟講話乾卷二六〇頁乃至自六頁參照)

右ノ二ツノ變遷ヲうえあとノ觀點トシテ考察スルノガ、本稿ノ主眼デアル。

二

うえあとノ考察ニ興味ヲ起サシメタノハめーとらんとノ研究デアル。其ノ論旨ハ原始單位トシテノ血屬團體ヲ否認スベクうえあとノラシ來ツテ、或ル一人ノ運命ガ甲乙兩ツノくらん即チ男女兩系ニ跨ルアルヲ指摘シ、結極 Kindred no corporation ト結論シタ、而シテ集團ハ血族爭鬭ニ際シテ更メテ成立シ、シカモ、一時的ニ存在シタルト觀察シタ。(Pollock, M. itand, History of English Law, Vol. II, 1898, pp. 241-245 並ニ國民經濟雜誌第二十六卷第一號乃至第二號拙稿「英國古代土地相續法ノ研究」參看)。めーとらんとノ右ノ結論ニハ、血屬團體トハ畢竟うえあと

ヲ目安トシテ人々ヲ集合セシメタ紐帶ナル事ヲ、大ナル前提トシテキル。果シテ其ノ前提ガ確立サレルヤ否ヤ(此ノ疑ヲ前掲拙稿デ遺シテオイタ、)隨ヒテ其ノ結論(氏族——くらん其他血屬團體ヲ指示ス——ハ單位トシテ確定ナリシヤ否ヤ)ノ吟味ヲバ、本體ナル氏族ノ機能ニ對ツテ先ヅ探究シテユク。

氏族ハ平和維持ノ團結防禦團體デアツタ。ぶるな—ノ言ニ從ヘバ、「氏族ハ最モ古キ平和團體デアツタ、即チ團體員ニ對シテ平和ヲ保證シテ、以テ其ノ團體員ニ加ヘラレタル權利ノ侵害ヲ復讐シ又襲ハレタル團體員ヲ防衛シタル團體デアル。」(Brunner, *Rechtsgeschichte*, Band I, 1905, S. 119) 換言スレバ氏族ハ『生存競争ノ爲ニ存在シ』タル團結デアツタ。(Stärkeノ用語ヲ借ル、——高田學士社會學原理八三一頁參看) 其ノ謂ハ恰モ今日ノ個人ガ身ヲ固メテ以テ他人ニ對フガ如ク、内ニ團結ヲ強クシテ以テ外敵ニ對抗スベク、氏族ガ存在理由ヲ有ツテキタノデアル。

内ニ平和ヲ維持シ外ニ競争ヲ擁護スベク、氏族ガ一個人トナツテ現レ權利ト義務トヲ兼ネ有シテキタ。之ヲ例セムニ團體ノ一員ガ他ノ團體員ニヨリ殺害サレシ時ハ、「族闘 *Fehde*, *blood-feud*」ヲ敢テシテ復讐ヲ行フカ、或ハ又贖罪契約 *Sühnevertrag* ノ締結ヲ強要スル」權利ヲ氏族全體ガ有スルトモニ、反對ノ場合即チ殺人ヲ爲ス者アルトキハ、氏族ハ共同デ如上ノ責ヲ負フベキ義務ヲ有ツテキタ (Brunner, *op. cit.* S. 119)、又被害者側ノ氏族ノ殘存者ニハ之ヲ要求スベキ責任サヘアツタノデアル (Brunner, *op. cit.* S. 122) 而シテ又「個人ハ氏族ニ留ツテ居ル以上ハ、敵タル氏族ト勝手ニ和解ヲ結ブガ如キ事ヲナシテ、氣儘ニ族闘ヲ脱レル權能ヲ有シナイ」者デアル。(Brunner, *op.*

cit. S. 119)。

氏族ガ統制的職能ヲ有スル團團ナリシ事、從ウテ其ノ團結ノ紐帶トシテぐえあ・ぎるとノ存在シタル事ヲ、右ノ事情ヨリシテ察知シ得ル。若シぐえあ・ぎるとノ紐帶ヲ確定不動ノモノト認ムルナラバ、氏族團體モ亦シカリ固キ團結ト是認サレル等デアル。めーとらんどハ之ヲ否定スベク『ぐえあノ分配ガ男女兩系ニ互ル故ニ』トイフ理由ヲ挿入シタ。

今ふるなノ考察スル所ヲ見ルニ、『原則トシテ男子ノミガぐえあ・ぎるとニ參與スベク、最古ノ法律ハ女子ヲ除外シタリ』ト言フ(Brunner, op. cit. S. 120)。尙ソノ所說ヲ聞クニ、『原始的ニハぐえあ・ぎるとノ要求ハ父系血屬團體ニ局限セラレタノデアルガ、シカモ尙早クヨリ其ノ要求權ハ擴充サレキタルモノニシテ、ぐえあ・ぎるとノ分配ニ關スルヨリ近代ノ文書ノ淵源ガ示ス範圍ニ於テハ、原則トシテ單ニ父系氏族ノミナラズ母系血族主ニ母系血族モ亦受領ノ權限ヲ有シタリ』ト認メラル(Brunner, op. cit. S. 121)。之ニ依リテ觀レバ、ぐえあ・ぎるとノ發現ハ、既ニひるでぶらんどノ觀察ヨリ推定シテオイタ如ク、系統ガ父ニヨリテ定メラル、ニ至リシ時期ニ在リテ、且ツ父系一元ヲ以テ最古トスベク、父母系兩元ハ其ノ後ノ制度デアル、めーとらんどノ曩ノ考察ハ其ノヨリ近代ノ現象デアツタト思ハル。又此ノヨリ近代ナル狀態ヲふるなノ言ヲ借リテ説明セムニ、『殺人ガ行ハレ復讐トシテ賠償ノ生ズル場合、先ヅ其ノ母系ノ祖父ノ氏族更ニ又母系氏族ノ他ノ部族ノ者ガ、更メテ構成セラルベキ族團ノ集團 *Fidegen-ussen claff, blood-end-grupp* ニ參加スル、ソノ集團ノ中堅ハ被害者ノ父系氏族團體ヲ基トシテ居ル』ノデアル。即チ、ぶらつどふゆうどノ集團

ガ更メテ組織サル、モノデアリ、又ソレ故ニ一時的ニ存在スルモノナル事、正ニめーとらんどノ觀察スル通りデアルガ、唯一條「其ノ集團ノ中堅ガ父系氏族ニ在ツタ」事ヲ見逃シテハナラヌ (Brunner, op. cit. S. 121-122)。

爰ニ反問ガ出ル、「然ラバ何故ニ此ノ一時的ノ集團現象——ヨリ適切ニハ殊更ナル團體觀念ノ發生ヲ、氏族團體ノ存在ニ類推シナケレバナラヌノカ、氏族ハ別箇ニ儼ニ存在スルノニ」ト謂フ(註3)。上述シ來ツテ故意ニ循環論談ヲ捻出シタ如クデアルガ、要スルニ、——單位トシテノ氏族ハぐえあざるとニ依リテ動搖ヲ來スモノデナイ——此ノ一事ヲ言ヒタカツタノデアアル。

(註3) 此ノ反問ニ對スル解答ナ次項デ試ミル。

III

今氏族ノ存在ノ背景トナツタ社會狀態ヲ思ヒ見ルニ、夫レハ絶ニザル鬭爭狀態ニ在ツタト考ヘ得ル。而シテ外ニ對シテ分離ノ傾向愈々著シクナルニ伴ヒテ、團體ハ内ニ對シテ結合ノ趨勢愈々大ナルアル事、社會學者ノ觀察ニ信ジ得ルデアラウ。サレバコソ斯カル形勢ノ中ニアツテ、平和保持ノ外敵防禦ノ團體トシテ、氏族ノ存在ガ愈々重要ナル意義ヲ有シテキタノデアアル。

ゲニ氏族ハ鬭爭——生存競爭ニ處シテノ團結デアツタ。ソレハ既ニ低度農耕ヲ經テ牧畜ヲ營メル時勢ニ進ンデキタ。牧畜民ハ「地域」ヲ要求シタ。彼等ノ團結ハ、血縁ノ他ニ地縁ヲ加ヘテ、愈々強度ヲ増シテキタノデアアル。更ニ又牧畜ノ社會トハ原人ノ鬭爭慾ガ食料ノ漸減ニ促サレ、殊ニハ動

物性食欲ノ刺激ニ向ヒテ自ラ個別的ナラ團體的ナル爭ヲ惹起セル時勢デアツタ。而シテズエゐゐるどハ其ノ間ニ生レタ。

元づゑあゐるどハ血屬關係ニ牽連シテキル。故ヲ以テ、ズエゐゐるノミ觀點トシテ排他的永續的單位トシテノ血屬團體ヲ否認スル者ヲ見ルノデアルガ、之ヲ氏族ニ就テ觀ルニ、氏族ノ團體ハ血縁ト相並ビテ地縁ヲ認ムベキコト、團結ノ強度ノ益々大ニナルト共ニ益々地域ヲ要求シタル事ヲ想ハネバナラス。即チ氏族ナル團體生活ハ血縁ヲ「楯」ニシテズエゐゐる生シタ、而シテ其ノズエゐゐる氏族ナル團結ヲ動カスコトナク、却ツテ血縁ト地縁トノ間ノ「楔」トナツテ固ク介在シタノデアル。

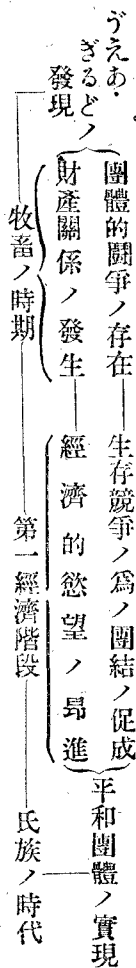
予ハ右ノ事情ニ經濟組織ノ發生ヲ認メ、原始經濟單位ヲ氏族ニ求メムト欲スル者デアル。

念フニ單位ハ組織ト相表裏スル。而シテ經濟上ニ於ケル人間ノ組織的努力ノ最モ原始ナルモノハ、牧畜ノ狀態ニ認ムベキデアル。牧畜民以前ニ經濟組織ヲ認ムベクモナイ。其ノ以前ニ於ケル人間ノ生活狀態ニハ、團結ヲ強要スル如キ競爭モ見ズ、單ナル欲望ノ充足ニ從ヘル個々人ノ行爲ノミガ見出サル、デアラウ。生存競爭ノ爲ノ團結ガ氏族トナツテ生レタ、言ヒ換フレバ、經濟組織ガ氏族トシテ始メテ現レタト解セラレヨウ。而シテ又氏族ノ團結ハ生存競爭ノ爲ノ欲望——謂ヒ得ベキ經濟的欲望ノ昂進ニヨリテ強度ヲ加ヘタ、ズエゐゐるどハ實ハ其ノ爲ノ紐帶ト成ツタト考ヘ得ラル、デアラウ。

翻ツテ思フニ、財産及ビ財産關係ノ原始ハ、幾多ノ經濟史家ニ倣ツテ、牧畜民ニ在ツタト認ムベキデアル。隨ウテ價值・價格ノ觀念ノ淵源、更ニ代償賠償ノ觀念ノ泉源モ、牧畜民ノ生活ニ推究セ

ラルベク、而シテ其ノ既往ニハ溯及シ難イト思ハル、。即チ財産又財産關係ハ、家畜ノ頭顱ヲ以テ判斷シタノガ最古デアツタト觀察セラル、ノデアツテ、此ノ一條ハ、づえあぎるとノ賠償ガ家畜ヲ以テシタルヲ最モ原始トスル事、並ビづえあぎるとノ制度ノ發現ガ掠奪婚ヨリ買收婚ヘノ過渡ト相應ジタリト認メラル、事情ヲ參看シテ、極メテ興味アル史實デアル。

乃チ私見ハづえあぎると發現ノ時期ヲ探リテ經濟組織成立ノ階段ト看做シタイノデアル。冗長ヲ虞レツ、此ノ考察ニ對スル興件ヲ表示スレバ次ノ如シ、



結構原始經濟單位ヲ氏族ニ肯シタイ。特ニづえあぎるとニ執着スル所以ハ、予ハ財貨流通ヲ經濟生活ノ根本的現象ト看做ス者デアリ、而シテ其ノ發端ヲ贖罪ノ制度ニ認メムト欲スル故デア

ル。(註4)

(註4) 行論ノ順調ナ期スル上カラ本項ニハ參考書目ヲ特記シナカツタ。本旨ハ經濟史・法制史ノ諸書特ニぶるな・ひるでぶらん
とノ著作ヲ味讀シテ收獲シタ。尙社會學的考察トシテハ高田學士ノ近著ヲ主ニ參看シタ。シカシ論理主トシテ拙キ私ノ思索ニ
任セタ。ソレテ論理ニ走り過ギタノナ危險スル故次項ヲ用意シタ。(未完)